

資料 2

「歯学教育の改善・充実に関する
調査研究協力者会議」(第2回)

H20. 8. 29

入学者の質の確保

私立歯科大学の立場から

歯学教育者協力会議 (平成20年8月29日(金))

東京歯科大学

学長 金子 讓

入学者の質を確保するために

一定の基礎学力やコミュニケーション能力を有する入学者を確保するためには多くの志願者を集めることが必要

➤ 歯科医学、歯科医療の魅力・可能性を発信
(国公私共通)

⇒ 志願者の増加

➤ 入学者選抜方法の検討

- 面接試験の工夫 (コミュニケーション能力)
- 入試科目、小論文試験の活用

➤ 高大連携の強化 (指定校、AO入試・・・)

(社)私立歯科大学協会の動き

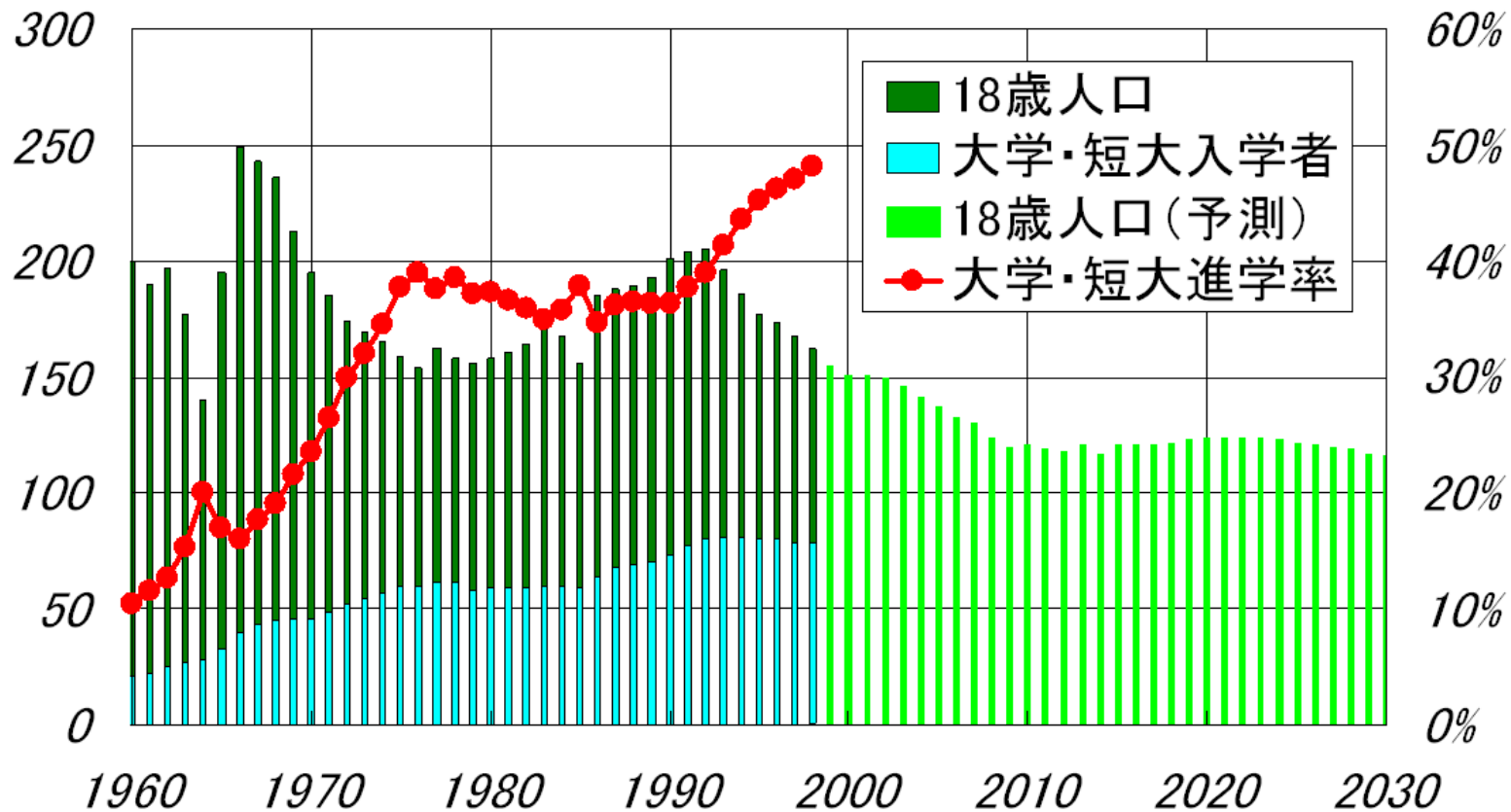
(私立17歯科大学・歯学部が加盟)

受験生確保対策事業 (国立大学歯学部と合同で実施)

- ①**広報パネルの作成** ・ ・ 各種ガイダンスで掲示
「**歯科医学・歯科医療の魅力**」を受験生および
社会一般に発信
- ②**ポスターの作成** ・ ・ ①のパネルの要点をまとめたポスターを全国高等学校へ配付

歯科大学・歯学部の受験生確保は従前の**競争**から
国公立を含めた**協力・協調**へ

18歳人口と大学進学率



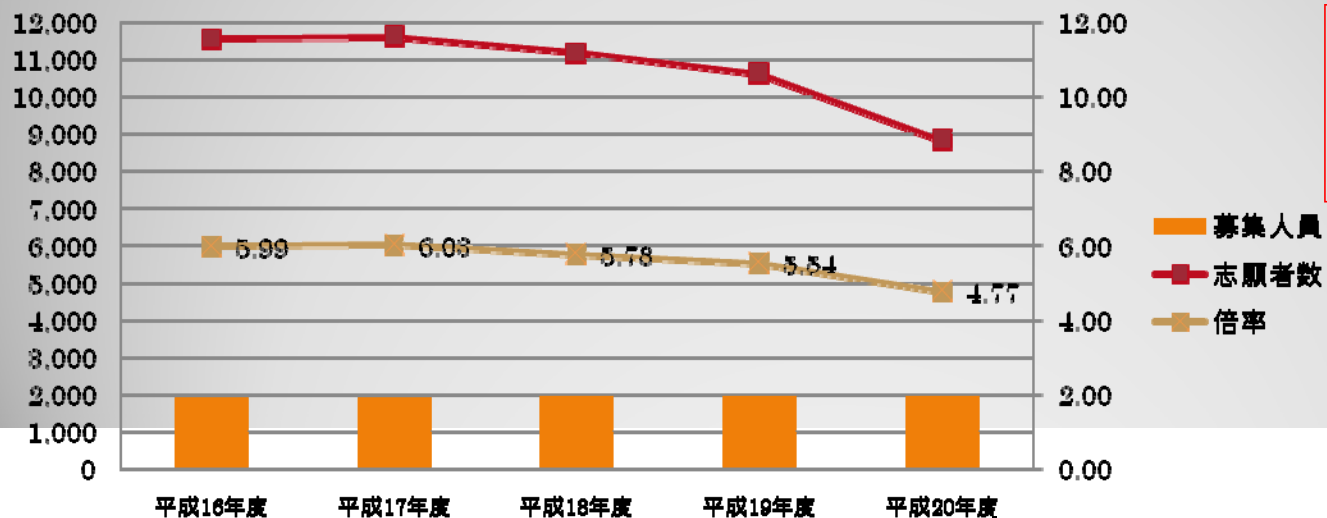
大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」(1998年10月26日)

18歳人口	1992年 (平成4年)	205万人
	2002年 (平成14年)	150万人
	2004年 (平成16年)	141万人
	2008年 (平成20年)	124万人

平成20年は、
平成4年の 60.5%
平成16年の 87.9%

私立17歯科大学・歯学部入試状況

区 分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	5年間趨勢比
募集人員	1,930	1,930	1,937	1,937	1,937	
志願者数	11,573	11,619	11,188	10,630	8,832	▲2,741 (▲23.7%)
内推薦志願者	1,220	1,210	1,168	1,078	794	▲426 (▲34.9%)
入学者数	1,931	1,928	1,936	1,919	1,850	▲80
倍 率	5.99	6.03	5.78	5.54	4.77	



18歳人口は、
平成16年に比べ
▲12.1%

私立歯科大学偏差値と学納金

大学	偏差値	学納金 (6年間)			単位：千円
A	56.0	32,441	J	52.0	31,900
B	55.0	31,900	K	52.0	33,200
C	54.0	30,000	L	52.0	29,500
D	54.0	33,200	M	51.5	34,200
E	53.0	29,100	N	51.5	31,700
F	53.0	31,550	O	51.5	31,550
G	53.0	39,500	P	48.5	27,000
H	53.0	32,400	Q	46.0	55,100
I	52.5	29,800			

メルリックス学院資料から抜粋

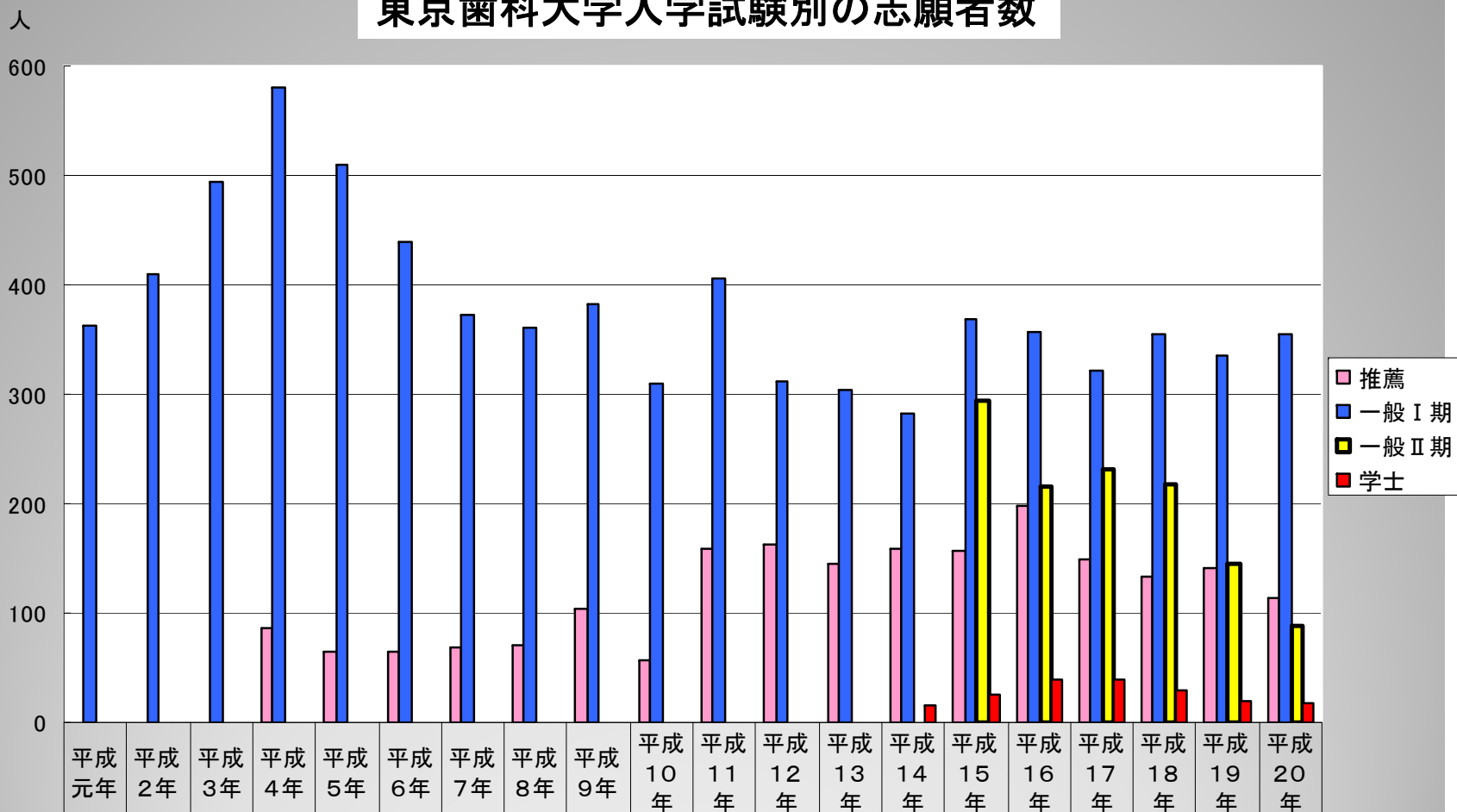
現 状

- 歯学部離れ（国公私共通の問題） 医学部志向
 - 歯科医師過剰
 - 国家試験の難度化
 - 医学部の臨時定員増
 - 学費、国公立大との差 etc
- 優秀な学生を確保・・・多くの志願者から選抜



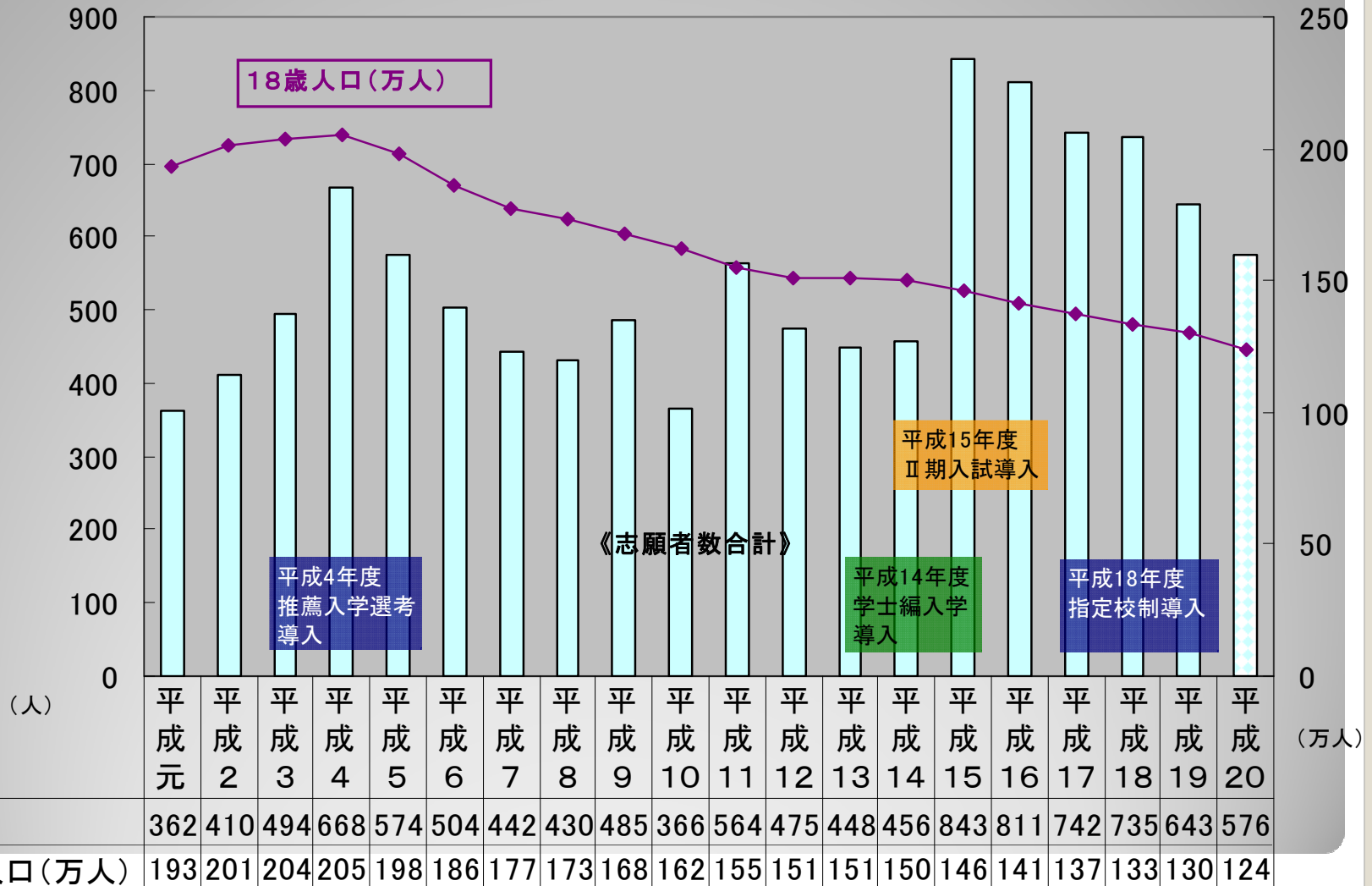
- 入学者選抜方法の工夫
 - 複数回の選抜試験の実施
 - 試験科目(数)の検討 etc
(基礎学力確保とのバランス)
 - 他校との入試日程の調整

東京歯科大学入学試験別の志願者数



推薦				87	64	64	69	70	103	56	158	163	145	159	156	199	149	134	142	114
一般I期	362	410	494	581	510	440	373	360	382	310	406	312	303	282	368	357	321	354	336	355
一般II期															294	216	232	217	145	89
学士														15	25	39	40	30	20	18

東京歯科大学の入学志願者数と18歳人口



合計	362	410	494	668	574	504	442	430	485	366	564	475	448	456	843	811	742	735	643	576
18歳人口(万人)	193	201	204	205	198	186	177	173	168	162	155	151	151	150	146	141	137	133	130	124

東京歯科大学の現状

● 入学者選抜方法の工夫

- ・ 平11 推薦入試応募資格の拡大
- ・ 平11 一般入試の日程を短縮
- ・ 平15 一般入試にⅡ期を導入
- ・ 平18 推薦入試に指定校制を導入
- ・ 平20 一般入試Ⅰ期の試験日変更
- ・ 平21 センター利用入試の導入

歩留率

区 分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
A.入学者	128	128	128	128	128
B.合格者 (補欠合格含)	167	169	202	192	176
A/B	76.6%	75.7%	63.3%	66.7%	72.7%

歯科大学を取り巻く環境の改善

- 本当に歯科医師過剰なのか？
- 歯科診療所の地域偏在
- 新しい標榜科（摂食・嚥下）、医療制度
- 一般病院での医師とのコラボレーションの可能性
医師法と歯科医師法の壁（ex. 歯科麻酔医）
- 歯科医師の待遇⇒保健医療制度の問題？
- 基礎歯学研究者を増加させるための環境整備

入学者の質の確保対策

—環境整備—

- 歯科医師の社会的評価向上
- 時代に則した歯科医師法解釈
- 私立歯科大学・学部でのミッション
(明確化と遂行)
- 競争環境に適応できる大学の質
- 財務基盤の確立 (学内改善、適切な診療報酬、適切な臨床研修医数)
- 危機的な現状認識の必要性



市民公開シンポジウム



歯科医学の将来展望

プログラム

開会あいさつ 米田 俊之 日本学術会議会員・歯学委員会委員

「基調発言」

鶴見大学歯学部特命教授、日本学術会議会員 瀬戸 院一

「メディア関係者の立場から」

読売新聞社 南 砂

「歯科保健医療の今後の展望」

日本歯科医師会・会長 大久保 満男

「歯科医師のキャリアパスと歯学教育」

九州大学病院副院長、日本学術会議連携会員 古谷野 潔

「歯学研究の問題点を考える」

埼玉医科大学ゲノム医学研究センター客員教授、
日本学士院会員、日本学術会議連携会員 須田 立雄

「口腔外科の Identity と境界領域問題について考える」

東京大学大学院医学系研究科教授、日本学術会議連携会員 高戸 毅

「歯科医学の将来展望—Periodontal medicine から始まる歯科界のブレイクスルー」

愛知学院大学歯学部長、日本学術会議連携会員 野口 俊英

「臨床（歯内治療学）の視点から」

東京医科歯科大学大学院歯学統合研究科教授、日本学術会議連携会員 須田 英明

「口腔医学の創設・育成と医歯一元化の再考」

福岡歯科大学理事長 田中 健蔵

「全体討論」

閉会あいさつ 渡邊 誠 日本学術会議会員・歯学委員会副委員長

座長 下野 正基 日本学術会議連携会員・歯学委員会幹事

須田 英明 日本学術会議連携会員・歯学委員会幹事

主催：日本学術会議 共催：有限責任中間法人日本歯学系学会協議会

後援：NPO 法人アジア対口腔がん協会 (AFOC)

問合せ：鶴見大学歯学部特命教授（学長補佐）瀬戸院一 TEL/FAX 045-582-0459

入場無料

日時：2008 年

9/2(火)

13:00~17:15

会場：日本学術会議講堂



地下鉄：千代田線乃木坂下車
代々木上原方面に向かい一番前の出口
〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34
TEL 03-3403-1056

医歯一元化の再考